# バックナンバー　総　目　次

## 第1号（1952）から第37号（1991）まで

### 第1号（1952）


Walther von der Vogelweide の宗教感情
…… 石川敬三（一）
「素朴文學と感傷文學」について …… 吉田次郎（十三）
「ペンテジレア」小論 …… 田川基三（三）
トーマス・マンのファウスト小説 …… 臼井竹次郎（三六）
ウォルフガング・ボルヒェルト …… 若林光夫（四一）
獨逸語音の一考察 …… 鹽谷饒（1）


### 第2号（1953）


ヘルダーリーン小論 …… 高原宏平（一）
ファウスト傳説とハイネ …… 杉山産七（三）
グリルパルツェルの悲劇とその位置 …… 森川晃卿（三六）
ブルクハルト・ニーチェ往復書簡 …… 佐野利勝（五九）
„Ackermann aus Böhmen“ の語法について
…… 塩谷饒（1）


### 第3号（1954）


ヘルダーリーンにおける「犠牲」の問題（上）
…… 谷友幸（一）
ヘルダーリーンに関する一考察 …… 岩橋保（二九）
リルケと音樂 …… 高安國世（四一）
グラッベの悲劇「ドン・ファンとファウスト」
…… 杉山さんしち（五四）

エッカーマンについて …… 田　川　基　三（㐂）

第4号（1955）

トーマス・マンにおける藝術と藝術家の問題
…… 吉　田　次　郎（一）
詩人と時代　ヘルダーリーンの讃歌をめぐって
…… 岩　橋　　保（七）
讃歌「平和の祝祭」をめぐる論争から …… 高　原　宏　平（三）
マンフレート・ハウスマン管見 …… 若　林　光　夫（四）
ルッターの飜譯論 …… 鹽　谷　　饒（吾）
ミンネ歌人ラインマル …… 石　川　敬　三（十）

第5号（1956）

文藝に於ける現實性の問題
（近代ドイツ文藝史上のレアリズムに関連して）
…… 梶　野　あきら（一）
ゲーテ・プロメートイス斷片について …… 臼　井　竹次郎（三）
ミンネ歌人ラインマル（承前） …… 石　川　敬　三（五）
ヘルダーリン論争
――1956年度ヘルダーリン協会大会から――
…… 高　原　宏　平（㐂）
獨逸語教授における發音の問題 …… 鹽　谷　　饒（1）

第6号（1957）

ゲーテの宗教敍事詩 …… 臼　井　竹次郎（一）
シュトルムの世界観 …… 田　川　基　三（十）
初期のブレヒトにかんする覺書 …… 高　原　宏　平（三）

東獨におけるヘルダー研究 …… 吉　田　次　郎（六）
ドイツのソネット …… 古　松　貞　一（1）

**第7号（1958）**

ゲーテの古典主義に就て（其の一）…… 梶　野　あきら（一）
「白馬の騎者」について …… 田　川　基　三（元）
ゴットフリィト・ベンと詩の問題 (一) …… 野　村　　修（咒）
現在分詞－口語と文語における用法 …… 塩　谷　　饒（1）

**第8号（1959）**

ゲーテの古典主義に就いて（其の二）…… 梶　尾　あきら（一）
ブレヒトの初期の詩について …… 野　村　　修（三）
エムリッヒの「フランツ・カフカ」に就いて
…… 高　木　久　雄（罕）
ゲーテの首陀羅について無駄話 …… 臼　井　竹次郎（六）

**第9号（1960）**

ファウストの「忘却」の場面について …… 芦　津　丈　夫（一）
「チャンドス卿の手紙」について …… 小　寺　昭次郎（三）
ヘルマン・ブロッホにおける小説の問題 … 林　　功　三（豈）
ルカーチの典型論に就て …… 梶　野　あきら（仝）

**第10号（1961）**

リルケ最晩年の詩
――特にフランス語の詩をめぐって――
…… 高　安　國　世（一）
「オペラ『マハゴニー』への註釈」の位置

——討論のひとつの材料として—— …… 野　村　　修（三）
最近のトーマス・マン研究から …… 吉　田　次　郎（㊀）
独逸語学覚書 …… 古　松　貞　一（20）
ドイツ語学最近の動向 …… 塩　谷　　饒（1）

**第11号（1963）**（注）

Heidegger と Bloch …… J.E.ザイフェルト（1）
Sprachprobe の諸問題 …… 塩　谷　　饒（47）
ドイツ語学覚書 …… 古　松　貞　一（79）

（注）発行が従来より遅れて62年度末の63年3月20日になったため、1962とあるべきところを1963としてもの。ただし、64年4月20日発行の第12号は1964、65年3月10日発行の第13号は1965となっている。

**第12号（1964）**

ゲーテの「様式」の概念について …… 芦　津　丈　夫（一）
「オルフォイスへのソネット」の世界とプノイマ的形象
——「オルフォイスへのソネット」論のノートから——
…… 田　口　義　弘（元）
初期のベッヒャー（その1） …… 小　寺　昭次郎（㊁）

**第13号（1965）**

「魔の山」の時間のこと …… 吉　田　次　郎（一）
作品「城」の成立
——カフカ「城」論Ⅲ—— …… 佐　藤　康　彦（元）
Stadtluft－Professor Lausbergs Rhetorikbücher－
…… J. E. Seiffert　（53）
ハルトマンの叙事詩「エーレック」

——宮廷叙事詩の表現の寓意性について——
…… 高　津　春　久（27）
ドイツ語學覺書3 …… 古　松　貞　一（1）

## 第14号（1966）

ホーフマンスタールの演劇への道 …… 飛　鷹　　節（一）
カフカの物語『歌姫ヨゼフィーネ、あるいは鼠の族』
…… 高　木　久　雄（三）
ドイツのプロレタリア革命作家同盟の創立について
——私的な覚え書きとして—— …… 小　寺　昭次郎（六）
約百記を読む記 …… 臼　井　竹次郎（五）
我 が 半 生
——停年退官にのぞんで—— …… 杉　山　産　七（十）
Carl Orff－der Erneuerer des Musiktheaters
Zum siebzigsten Geburtstag des Dichter-Komponisten
…… Kurt Hommel（1）

## 第15号（1967）

メーリケの童心に觸れて …… 臼　井　竹次郎（一）
トーマス・マン覚書
——「魔の山」時代の政治と文学—— …… 林　　功　三（六）
ギュンター・グラスの「ぶりきの太鼓」に就いて
…… 武　田　昌　一（42）
Fräulein と Männin
——造語に関する一考察—— …… 塩　谷　　饒（23）
Zur Dramaturgie Gerhart Hauptmanns

Teil I :Das Urdrama …… Kurt Hommel ( 1 )

**第16号（1968）**

ラオコオーン群像をめぐって

—ウィンケルマン—レッシング—ヘルダー—

…… 若 林 光 夫（一）

「ゲーテのファウスト」研究について …… 梶 野 あきら（三）

中高ドイツ語の動詞 mügen の一用法について

…… 石 川 敬 三（1）

——書 評——

Heinz F. Wendt : Sprachen …… 塩 谷 饒（15）

Walter Jung : Grammatik der deutschen Sprache

…… 武 田 昌 一（22）

Zur Dramaturgie Gerhart Hauptmanns

Teil II : Das Nachtgeborene oder tragische Parabel

…… Kurt Hommel（30）

**第17号（1969）**

ジャン・パウルの現実否定と小説形式

——『カッツェンベルガー博士の温泉旅行』——覚え書——

…… 池 田 浩 士（一）

『言葉の格子』と詩の可能性

——パウル・ツェラーン覚書—— …… 本 郷 義 武（三）

ゲオルク・トラークル

——≪Gottes Schweigen≫について—— … 平 井 俊 夫（六）

技術の進歩と像の消滅

——マクス・ピカートの観相学に拠る断章——

……佐　野　利　勝（㐅）

DREI LIEBESGEDICHTE VON GÜNTER GRASS

（"Liebe"－"Kirschen"－"Blutkörperchen"）

……Siegwart Berthold（1）

**第18号（1971）**

ネリー・ザックスの世界

――詩集『死のすみかで』によせて――

……田　口　義　弘（一）

ファウスト像の現在的問題性

――H・アイスラーの歌劇台本『ヨーハン・ファウストゥス』を

めぐる論争について――　……好　村　冨士彦（三）

ヴォルフラム・フォン・エッシェンバッハの抒情詩

――あるオーバーゼミナールの記録――　…高　津　春　久（㐅）

わが遍歴の旅 ……臼　井　竹次郎（㐅）

Der „Hessische Landbote" von Georg Büchner

und Ludwig Weidig　……Siegwart Berthold（1）

**第19号（1972）**

言葉の起源

――ヘルダーの『言語起源論』について――

……芦　津　丈　夫（一）

『魔笛』の系譜と通過儀礼 ……小　岸　　昭（㐅）

ホーフマンスタールの小説断片『アンドレーアス』をめぐって

――他の散文との関連において見た≪フィナッツァー・ホーフ≫――

……飛　鷹　　節（三）

HOFMANNSTHALS „ANDREAS"－FRAGMENT

——*Kommentar und Kritik*—— …… Klaus Wille　（1）

**第20号（1973）**

レッシング「ミンナ・フォン・バルンヘルム」への評価

…… 吉田次郎（一）

中世格言詩の表現と世界像

——フライダンクの『ベシャイデンハイト』の語法研究による——

…… 高津春久（丸）

ジャン・パウル『レヴァーナもしくは教育論』入門

…… 池田浩士（斎）

Brentanos Paradox

——Anmerkungen zu einigen Gedichten Clemens Brentanos——

…… Klaus Wille　（1）

**第21号（1975）**（注）

ヴァルター・ベンヤミン伝のための三つの短章

…… 野村　修（一）

Mir fällt zu Hitler nichts ein

——カール・クラウスと素材の問題にふれて——

…… 佐藤康彦（言）

ドイツ語における Modalität の概念とその文法構造 (1)

…… 井口省吾（1）

（注）1974年度は発行されなかったようである。

**第22号（1976）**

中世格言詩の表現と世界像 (2)

——格言詩人としてのヴァルターとその後継者たちによる
テーマの展開—— …… 高　津　春　久（一）
エルンスト・ブロッホの音楽哲学について
…… 好　村　冨士彦（三）
Lieder zum Nachdenken－Das literarische Chanson und
das politische Lied Franz Josef Degenhardts －
…… Kenichi Sagara（1）

**第23号（1977）**

プロレタリア革命文学研究・その一
——W・ブレーデルの「N＆K機械工場」の評価をめぐって——
…… 林　　功　三（一）
『C・W伯爵の遺稿より』とその周辺をめぐって
——リルケの中期から晩年への詩境の展開（その三）——
…… 稲　田　伊久穂（三）
Max Frisch — oder die Furcht vor der Entmenschlichung
der Gesellschaft …… Manfred Hubricht（27）
Weland-Velent-Völundr
——名工ヴィーラント伝承の系譜（I）——
…… 石　川　光　庸（1）

**第24号（1978）**

伝説と詩作
——リルケ『マリアの生涯』をめぐって——
…… 田　口　義　弘（一）
新主体性論争

——詩作の基盤として——

……内　藤　道　雄（罔）

Wege und Aporien der 〉Rezeptionsästhetik〈

……Eberhard Scheiffele（43）

Valenz 理論における自然言語のパターン化と

その「意味論」について

——特に G. Helbig と W. Bondzio の理論的対立をめぐって——

……井　口　省　吾（18）

Weland — Velent — Völundr

——名工ヴィーラント伝承の系譜（II）——

……石　川　光　庸（1）

**第25号（1979）**

宮廷恋愛詩の詩人と聞き手

——ヴァルターの歌「皇帝と吟遊詩人」の解釈を中心に——

……高　津　春　久（一）

Weland — Velent — Völundr

——名工ヴィーラント伝承の系譜（III）——

……石　川　光　庸（79）

*Über die Relativkonstruktion bei der ersten*

*und zweiten Person*

……Yoshihiko Nishimoto（41）

*Thomas Manns 〉Der Erwählte〈*

*in rezeptionstheoretischer Sicht*

……Eberhard Scheiffele（1）

## 第26号（1980）

詩表現にかかわる自然の二つの意味

——ドロステ＝ヒュルスホフとメーリケの場合——

……内　藤　道　雄（一）

反語的哀悼の詩作

——『ある女友だちへの鎮魂歌』におけるリルケ——

……田　口　義　弘（三）

ON LINGUISTIC ARBITRARINESS

……Volker　Beeh（1）

## 第27号（1981）

ハインリヒ・マンの歴史小説『アンリ四世』について

……山　口　　裕（一）

オクラホマ劇場

——一九一四年の『アメリカ』——　……三　原　弟　平（四）

Lemurenlächeln und Geometrie

——Zu „Die große Fracht" von I. Bachmann und

„Fensterinhalte" von H. Heißenbüttel——

……Eberhard Scheiffele（28）

Bemerkungen zur Evolution der Sprache

……Volker Beeh　（1）

## 第28号（1982）

リルケの人形論……田　口　義　弘（一）

アルヒポエータの告解の歌……高　津　春　久（三）

Affinität und Wechseldurchdringung

—— Zum Problem der Voraussetzungen〉interkulturellen〈Verstehens ——
…… Eberhard Scheiffele（29）
ドイツ語統語論研究史（I） …… 西　本　美　彦（1）

## 第29号（1983）

ヴォルフ・ビーアマン　1982 …… 野　村　　修（一）
宮廷歌人ラインマルと
ヴァルターのパロディー〈L 111, 22〉
…… 高　津　春　久（三）
ベッヒャーの訴訟事件について …… 小　寺　昭次郎（六）
ハインリヒ・マンの『呼吸』について
——忘れられた心理小説——
…… 山　口　　裕（九）

## 第30号（1984）

ブレヒトの教材劇について
——『リンドバーグたちの飛行』から『処置』まで——
…… 野　村　　修（一）
『C・W伯爵の遺稿より』とその周辺をめぐって
——リルケの中期から晩年への詩境の展開（その四）——
…… 稲　田　伊久穂（六）
ジャン・パウルと分身
——小説構造をめぐる覚え書——
…… 池　田　浩　士（三）
Das Theologische, Mythologische, Religiöse als
strukturbestimmendes Moment im *Doktor Faustus*

…… Eberhard Scheiffele（30）

Der Name Wieland des Schmiedes

—— *vîsi álfa* in der Edda, *wis Weland* in Alfreds Boethius und

*witeye wurhte* in Layamons Brut ——

…… Mitsunobu Ishikawa（14）

Der Herrenblick schon im ersten Weltkrieg

—— Zu Ernst Jüngers „In Stahlgewittern", 1920 ——

…… Eckhardt Momber（1）

## 第31号（1985）

ドイツ古代民謡とミンネザングの成立 …… 高　津　春　久（一）

ロシア美術とリルケ …… 内　藤　道　雄（云）

カフカの「笑い」をめぐって …… 三　原　弟　平（空）

R. M. リルケ　鎮魂歌（二篇） …… 田口　義弘　訳（夵）

Warum einer schweigt

—— Zu Wolfgang Koeppens bislang letztem

Roman „Der Tod in Rom"（1954）——

…… Eckhardt Momber（1）

## 第32号（1986）

高安国世編・訳の日本詞華集

》Ruf der Regenpfeifer《について（上）

…… 野　村　　修（一）

リルケ『オルフォイスへのソネット』における果実

…… 田　口　義　弘（三）

シャンドス卿とフランシス・ベーコン …… 小　岸　　昭（空）

シーズレクのサガ　84章～136章
——ヴェーレントの物語——（その1）
……石　川　光　庸（六）
ルカーチとDDRにおける文化遺産継承の問題
……林　　功　三（三）
ドイツ語統語論研究史（2）
——第1章　M. Luther から K.F. Becker まで（その2）——
……西　本　美　彦（1）

**第33号（1987）**

高安国世編・訳の日本詞華集
》Ruf der Regenpfeifer《について（下）
……野　村　　修（一）
リルケの「窓」のモチーフ（上）……稲　田　伊久穂（三）
裏がえしの神学　あるいは
ベンヤミンの「せむしの小人」……三　原　弟　平（五）
ベンヤミンの名称言語をめぐって……道　籏　泰　三（二五）

**第34号（1988）**

中世文学の叙述……高　津　春　久（一）
『ベンヤミンの生涯』への補遺　二篇……野　村　　修（三〇）
ハインリヒ・マンの長編小説『首脳』について
……山　口　　裕（五〇）
啓示体験と言語——ベーメの場合……道　籏　泰　三（八〇）
Gestörte Besprechung……Eckhardt Momber（55）
ドイツ語統語論研究史（3）……西　本　美　彦（36）

Wackernagel の法則とドイツ文の文頭・文末構造
——統率・束縛理論の立場から—— …… 井　口　省　吾（1）

## 第35号（1989）

シーズレクのサガ　84～136章
——ヴェーレントの物語——（その2）…… 石　川　光　庸（一）
十二世紀風刺詩の技法
——カルミナ・ブラーナのパロディーの解釈——
…… 高　津　春　久（三）
リルケの「窓」のモチーフ（中）…… 稲　田　伊久穂（五）
「表現主義」私観
——シンポジウム<いま「表現主義」を考える>のために——
…… 野　村　　修（九）
「アレゴリー＝文字」論
——ベンヤミンにおけるアレゴリーの射程——
…… 道　籏　泰　三（一〇）
Das Freiheitsproblem bei Kant
——Anmerkungen zur Antinomienlehre der *Kritik der reinen Vernunft*——
…… Albrecht Decke-Cornill（1）

## 第36号（1990）

ゲーテとモーツァルトを結ぶもの
——父と母の相補性——
…… 芦　津　丈　夫（一）
ユートピアの罠

——表現主義時代の精神共同体幻想——
…… 内藤道雄（三六）
ベンヤミンにおけるアウラの概念 …… 野村　修（五一）
ベンヤミンにおける「アウラ」の展開 …… 道籏泰三（九二）
13世紀の説教集に映ずるドイツ民衆の生活像
…… 尾野照治（22）
Aspekte der Kantrezeption im lutherischen Protestantismus
…… Albrecht Decke-Cornill（1）

## 第37号（1991）

アドルノにおけるアウラの概念 …… 野村　修（一）
亡命作家ハインリヒ・マンの位置 …… 山口　裕（三）
リルケの「窓」のモチーフ（下） …… 稲田伊久穂（六〇）
商業の道義について
——中世の僧と哲学者の言葉から——
…… 高津春久（九三）
ゲーニウスのパラドックス
——初期ベンヤミンにおける「同一性」と「非同一性」をめぐって——
…… 道籏泰三（一二五）
Der Begriff der Aura bei Benjamin und Adorno
…… Osamu Nomura（1）